

学生図書委員だより

No.3

二〇〇九・一・発行
編集・学生図書委員



大つかみ出版社マップ 出張編

芥川賞&直木賞

今回は文学界の二大文学賞の芥川賞と直木賞をご紹介します。大まかな位置づけとして、芥川賞は純文学の登竜門、直木賞は大衆文学の実力派が取る賞となっています。しかしこの定義は非常に曖昧で、特に直木賞は作家の旬を上手く掴みきれないといよく批判されており、最近では「遅すぎる受賞」が目立ちます。

どちらも創設者は菊池寛。よって、この両文学賞の主催者も文芸春秋です（文芸春秋は菊池寛が作った出版社）。開催は年に二回。受賞した作品は書店やメディアで大々的に取り上げられ、実際売り上げ部数も跳ね上がるが多いようです。

両賞は日本で最も有名な文学賞ですが、時代の潮流に乗り切れていないとか、無難な作品ばかり受賞するだとか、問題も多い模様。うかうかしていると、本屋大賞の方が信用度が高く…なんて日も近いかも？

足跡塾第三回 東野圭吾の巻

去年は映画にドラマにと、原作者として引つ張りだだった東野氏。彼が影響を受けた作家といえば、今年生誕一〇〇年を迎える松本清張でしょう。そう、あの『点と線』や『砂の器』の松本清張です。

映像作品のイメージで、清張というと社会派ミステリーの重鎮の代名詞みたいに聞こえますが、そんなことはありません。歴史モノからSFまで、とても多作で広いジャンルを書く作家なのです。また、清張作品を読んでいると、緻密ながらも衝動的な感情、優し

さだけでない人間への厳しいまなざしなど、東野作品と共通するテーマがちらほら。まずは名作『点と線』からどうぞ。短編から読みたいという人には、『松本清張傑作短篇コレクション』がおすすめ。これは宮部みゆきが編者で、前口上も宮部氏が書いており、初めての清張読者にもとつきやすく作られています。

他に東野氏に似ている作家というところ…藤原伊織なんてどうでしょう。あ、そうだ、第二の東野圭吾になるかもという噂のある(?) 葉丸岳にも注目です。

今月の二首

つかまえてくれない
人と帰りみち今日は
ルパンにさらわれた
いよ

中村のり子
ときどき嫌になるん
だ、君の事。でも、私
も何も言えないんだ。

ぼくはもっと近くに
いたいもっともっと
近くにいたい おつ
とりと雪

東直子
雪の降る音がする。
ほら。もっと耳を澄ま
して聞いて。



NEVER
ENDING
STORY...

特集 バレンタイン直前は初恋に帰ろう

チョコをあげる人もあげない人も、熱々の人も冷めかけの人も、今年はその頃のピュアな気持ちを思い出してみませんか？ ドロドロ恋愛一切ナシ。もちろん、彼女が白血病になったり死んだ妻帰ってきたり、かっこいい彼が無条件でわたしを愛してくれる、なんてこともナシ。ささいだけれど勇敢にして甘酸っぱい、本物の初恋に浸りましょう。

『幸福ロケット』（山本幸久）は、何気ない日常にきらきらしたものがたくさん詰まっています。ラストでは胸がぱいになります。不思議な空気が気持ちいい『リレキシヨ』（中村航）では、

素晴らしいデートシーンが出てくるので、素晴らしい。切なくも限りなく透明な初恋なら、『サマータイム』（佐藤多佳子）を是非。忘れられない出会いを思い出してしまっても。

あとはスペースがないので書名だけ…『レインツリーの国』（有川浩）『これは王国のかぎ』（荻原規子）『シルエット』（島本理生）『さみしさの周波数』（乙一）など。他にも色々探してみてくださいね。

いい本を読むことは、本の中の物語を自分が体験するということ。皆さん、本来恋とは勇敢であるべきものなんですよ。